

令和6年度 医学群
教学 I R 実施報告書

はじめに

令和6年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響はございましたが、医療者の教育に欠かせない実習を中心に従来の教育が再開しております。また、Web 会議システム等を使用した遠隔での授業運用にあっても、ICT 技術を利用した、様々な工夫が凝らされるようになりました。教職員、学生の ICT スキルが急激に上昇し、その利点を生かした学修が行われております。

横浜市立大学医学部医学科においては、JACME による分野別認証評価を 2016 年 5 月に受審し、2018 年 4 月から 2024 年 3 月までの期間で認証を受けており、二巡目の受審を 2023 年秋に受審しました。受審結果は 7 年間の延長認定となりましたが、受審のなかで 教学IR 体制のさらなる整備とその体制を利用した継続的な医学教育プログラムの改良の仕組みの構築についての指摘がありました。これまでの医学科の改善状況の詳細については、毎年 JACME への報告を行い、その内容は本学ホームページ上で年次報告書として公開されています。そこでの記載に加え、2019 年から全学的な取り組みのもと、医学科と看護学科を合わせて、この報告書を作成し、公開する体制が整備されていることを幸甚に存じます。なお医学群に所属する学生数は、医学科定員 90～93 名/学年、看護学科定員 100 名/学年と少なく、個人が特定されやすい状況を踏まえて、情報の一部について概要のみの公開となることをご容赦頂ければと考えております。

医学群教学 IR 検討ワーキング長
藤田 浩司

令和6年度 医学群教学 I R 取組事項

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 成績評価を集計し、講義、実習、演習の授業形態別の成績評価の傾向から現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されているか」を確認した

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 授業評価アンケート結果を用いて授業外学修時間が十分に確保できているかを確認した
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換した

3. CBTの結果と国家試験合格率の相関に関する分析（医学科）

<取組概要>

- 1 CBTの結果と国家試験合格率に相関があるかを確認した。
- 2 分析データから見えた重点ケア先について、今後の取り組みを意見交換した。

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

（1）実施内容

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認

（2）解析及び検討状況

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認 現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されている」といえるかを確認するためにまず令和 5 年度科目の成績情報を定めた条件に基づいて集計した。成績情報は「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」という評価と、それを点数化する GP（グレードポイント）を用いて科目群、授業形態の二つに分けて検討した。科目群についてみると、医学科、看護学科共に基礎科目と臨床科目に若干の差があるものの、概ね昨年度同様に推移していた。授業形態別で確認したところ、「講義」「演習」「実習」のそれぞれで成績評価の傾向が異なる結果となり、講義と実習を比較すると、実習の方が「秀」「優」の割合が多くなる傾向が医学科、看護学科で同様に見られたが、昨年度と同様の傾向であった。また GP を用いた解析においても同様の傾向であった。これらの結果から医学部では科目群や授業形態によって特徴はあるものの概ね適切に成績評価が実施されていると判断した。

（3）分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

- 医学群 IR ワーキング
- 医学科教授会・医学部合同運営会議

（4）添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

（1）実施内容

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換

（2）解析及び検討状況

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認

令和4年度、令和5年度の授業評価アンケートの結果をもとに、学生の授業外における学修時間の状況を把握し、大学設置基準や学部の通則に沿った授業外学修時間の確保を目標に対策を検討した。1 単位の授業科目の場合、45 時間の学修時間が必要だが、授業時間で補えない学修時間は授業外で行うことが必要となることを前提として確認した。医学科は、1 日の講義に対する予習・復習の時間は、最も多いのが30 分で講義形式なら36.5%、実習形式なら41.6%であった。一方、2 時間以上の時間を確保している学生は約5 %であった。看護学科は、授業時間以外の1 週間に行う該当科目の学修時間は、1 時間未満で約 39.4%、2 時間未満が約 25.7%で、2 時間以上確保している学生は約 10%であった。この結果から医学科、看護学科ともに十分な学修時間が確保できていないことを確認した。なお、解析に用いた授業評価アンケートは回答率が低く、データの信憑性乏しいのではないかと意見があり、正確な検討のためのデータ収集が課題となった。

2 学修時間を確保するための対策について意見交換

学修時間の確保には予習や復習の機会を創出することが一つ意見として挙げられた。学修時間の確保が目的ではなく、授業における理解の促進やディスカッションを活発に行うという観点を持つ必要があると提示された。医学科、看護学科ともに学年が進行すると、模擬試験や国家試験を見据えて学修時間が徐々に増えていくが、そういった学修できる環境の整備が必要であると意見が出された。その他に学習意欲を向上させる取り組みの必要性が提示された。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、下記の各種会議にて報告を行うとともに、結果を医学部教授会で報告・共有し、医学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR 検討ワーキング

○医学科教授会、医学部・医学研究科合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

3. CBTの結果と国家試験合格率の相関に関する分析（医学科）

(1) 実施内容

- ・ 医学科4年時に受験するCBTと、6年次に受験する医師国家試験の結果を基に、相関性を確認する。

(2) 解析及び検討状況

国家試験不合格者の中にCBT下位10%の学生がおり、平均すると国家試験不合格者の75%はCBT下位10%の中から出ている。

⇒CBTの結果が出た時点で、下位10%の学生には集中的に課題や補講、担任面談、模試の受験などを促すことで、医師国家試験合格率の向上が期待できる。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、下記の各種会議にて報告を行うとともに、結果を医学部教授

会で報告・共有し、医学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR 検討ワーキング

○医学科教授会、医学部・医学研究科合同運営会議